

キャリア教育における多段階相互評価の実践と 進路選択自己効力の向上

A Practice of Multistep Peer Assessment Learning in Career Education
and Improvement of Career Decision-making Self-efficacy

桑原 千幸^{*1*2} 喜多 敏博^{*1} 合田 美子^{*1} 鈴木 克明^{*1}

Chiyuki KUWAHARA^{*1*2} Toshihiro KITA^{*1} Yoshiko GODA^{*1} Katsuaki SUZUKI^{*1}

*1 熊本大学大学院教授システム学専攻 *2 京都文教短期大学食物栄養学科

*1 Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

*2 Department of Food and Nutrition, Kyoto Bunkyo Junior College

〈あらまし〉 主体的なキャリア形成には、進路選択に対する自己効力を高めることが求められるが、その適切な介入方法は明らかではない。本稿では、キャリア教育科目における Moodle を活用した多段階相互評価学習の実践について、実践前後の進路選択自己効力の変容と、学習課題に対する動機づけについての事後アンケートをもとに検討した。その結果、相互評価学習の実施によって進路選択自己効力の平均点が有意に向上したことが明らかになった。

〈キーワード〉 キャリア教育、進路選択自己効力、相互評価、Moodle、ARCS モデル

1. はじめに

キャリア教育では、各人にふさわしいキャリアを形成するために「今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動する」力の育成が求められる。この主体的に進路を選択する能力は、Bandura の自己効力感をもとに Taylor & Betz (1983) によって「進路選択自己効力」として提唱されており、介入による変容が可能であるとされている。しかし、進路選択自己効力を高める方法については、コンピュータを活用したキャリアガイダンスや職業情報探索による効果といった先行研究があるが、適切な介入の方策は必ずしも明らかではない (富永, 2008)。

一方、学習者間の相互評価は、成果物の改善や評価能力の向上を実現し (藤原ら, 2008)、他者の多用な意見を踏まえることで自己の意見の明確化につながる (布施・岡部, 2010) ため、キャリア教育においても有効な学習方法であると考えられる。そこで、筆者らはこれまでキャリア教育における効力感向上の取り組みとして相互評価学習を実践してきた (桑原, 2011)。その結果、学習者がキャリアに関する意識を深め、相互評価学習の繰り返しによる評価能力の向上について 84.6% が肯定的に捉えていることがわかった。

本稿では、キャリア教育における Moodle を活用した多段階相互評価学習の実践について、進路選択自己効力の変容と、キャリア態度や学習課題

に対する動機づけとの関係について報告する。

2. 方法

2.1 授業実践

短期大学 1 年生 2 クラス 29 名を対象としたキャリア教育科目において、キャリアプランとその発表に対する多段階相互評価学習を実施した。評価対象として、あらかじめ評価者 1 人につき 5 人を割り当てた。相互評価学習システムとしては、Moodle 2.0x のワークショップモジュールを使い、匿名で評価を行った。評価基準を明確にするため、8 つの評価項目について 5 段階のルーブリックを学習者に提示した。多段階相互評価学習に関わる授業の流れを表 1 に示す。

表 1 多段階相互評価学習の流れ

回	概要	詳細
11	キャリアプランの作成	キャリアプラン作成のための講義とワーク
12	キャリアプランの作成	PowerPoint の使用方法を説明後、キャリアプランを作成
13	キャリアプランの相互評価と改善	キャリアプランの提出 評価規準の説明と評価の練習 ファイルを対象とした相互評価 キャリアプランの改善
14	キャリアプランの発表	キャリアプランのプレゼンテーションと相互評価
15	発表の振り返りとまとめ	自己評価の入力 (動画を参照) アンケートの実施 尺度による調査

2.2 調査の概要

進路選択自己効力については、浦上（1995）の進路選択に対する自己効力尺度（30項目4件法）を用いた調査を、入学時（15回の授業開始前）、相互評価学習の実施前、実施後の3回行った。また、キャリアに対する態度に関する3項目の調査を実践の前後に行い、キャリアプランの作成と相互評価に対する動機づけの把握を目的とした27項目（5件法）のアンケートを実践後に実施した。動機づけに関わる質問項目は、ARCSモデル（鈴木, 1995）を参考に作成した。

3. 結果

3.1 進路選択自己効力の変容

表2 進路選択自己効力の推移※ (N=29)

入学時	実施前	実施後	各時期の得点差
74.86 (10.86)	79.72 (10.79)	90.07 (12.60)	入学時, 実施前> 実施後**

(** $p < .01$, * $p < .05$)
※ 数値は平均値、括弧内は標準偏差である。

進路選択自己効力尺度の入学時、実施前、実施後の3時点における平均値を分散分析で比較した。その結果、 $F(2, 58) = 12.89, p < .01$ で、平均値に有意差があることがわかった。そこでTukey法で多重比較を行ったところ、入学時と実施前の平均点には有意差が確認されなかったが、入学時と実施後、実施前と実施後の平均点には1%水準で有意差が確認された(表2)。

3.2 進路選択自己効力と課題への動機づけ

進路選択自己効力の実施後の点数および、実施後から実施前を引いた尺度の変化得点と、キャリアプランの作成と相互評価に対する動機づけについての質問項目の相関係数を算出した結果を表3に示す。実施後と「キャリアプランを自分なりに考えることができた」(効力感)との間に有意な正の相関が見られた。また、変化得点と「キャリアプランを今後も考えてみたい」「キャリアプランの発表を今後もやってみたい」の間にそれ

ぞれ有意な正の相関が見られた。

4. おわりに

本稿では、キャリア教育における多段階相互評価学習の実践によって進路選択自己効力が有意に向上したことを明らかにし、課題への動機づけと進路選択自己効力の関わりを検討した。学習課題が進路選択自己効力に与える影響について、下村（2000）は課題の認知が自己効力の変容に密接に関連している可能性を指摘している。今後は、課題の認知の中でも特に課題に対する効力感が進路選択自己効力に影響を与えているのではないかという観点からさらなる検討を行いたい。

参考文献

藤原康宏, 大西仁, 加藤浩 (2008) 継続的な学習者間評価を導入した情報教育の実践. 情報処理学会論文誌, 49(10): 3428-3438

布施泉, 岡部成玄 (2010) 多段階相互評価法による学習の実践と効果. 日本教育工学会論文誌, 33(3): 287-298

桑原千幸 (2011) キャリア教育における相互評価学習実践に関する研究—評価能力の向上と自己効力感の観点から—. 京都文教短期大学研究紀要, 50: 53-60

下村英雄 (2000) 自己分析課題がコンピュータによる情報探索および進路選択に対する自己効力に与える影響. 進路指導研究, 20(1): 9-20

鈴木克明 (1995) 『魅力ある教材』設計・開発の枠組みについて—ARCS 動機づけモデルを中心に—. 教育メディア研究, 1(1): 50-61

Taylor, K. M., & Betz, N. E. (1983) Applications of self-efficacy theory to the understanding and treatment of career indecision. Journal of Vocational Behavior, 22: 63-81

浦上昌則 (1995) 学生の進路選択に対する自己効力に関する研究. 名古屋大学教育学部紀要教育心理学科, 42: 115-126

表3 課題への動機づけと進路選択自己効力の相関

(N=29)

	キャリアプランを考えること						プレゼンすること					他の人を評価すること				
	面白かった	やりがいがあった	今後できそうだと自信が	自分なりに考えることができた	やってよかった	今後もやってみたい	面白かった	やりがいがあった	今後できそうだと自信が	やってよかった	今後もやってみたい	面白かった	やりがいがあった	今後できそうだと自信が	やってよかった	今後もやってみたい
平均 (SD)	4.76 (0.44)	4.72 (0.45)	4.31 (0.60)	4.72 (0.45)	5.00 (0.00)	4.34 (0.61)	4.28 (0.59)	4.59 (0.57)	4.14 (0.74)	4.62 (0.62)	3.90 (0.82)	4.38 (0.68)	4.38 (0.78)	4.03 (0.73)	4.52 (0.51)	4.00 (0.76)
実施後	0.086	0.107	0.205	0.518	-	0.255	0.120	0.019	0.141	-0.109	0.403	-0.057	-0.236	-0.172	-0.170	-0.192
変化得点	0.038	0.112	0.301	0.169	-	0.463	0.334	-0.097	0.023	0.100	0.350	-0.125	-0.028	-0.474	-0.052	-0.025

* $p < .01$, ** $p < .05$, + $p < .10$